

氏 名	須藤 訓平 (ストウ クンペイ)		
学位の種類	博 士 (芸 術)		
学位記番号	甲第 13 号		
学位授与日	平成 19 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
論文題目	<b>絵図に表現された江戸名所における</b> <b>水辺空間構造に関する基礎的研究</b> <b>ー水辺空間における『風物詩空間』を創出する</b> <b>ランドスケープデザイン手法ー</b>		
審査委員	主査 教 授	佐 藤 晃 一	
	副査 教 授	清 田 義 英	
	副査 教 授	渡 部 一 二	
	副査 石川県立美術館学芸専門員	村 瀬 博 春	

## 内 容 の 要 旨

浮世絵図の研究は、これまで、美学、社会行動学、文学、歴史学等の分野で個々に進められてきた。

こうしたそれらの研究は、江戸の文化が高度の精神性を有している事を証明しているが、本研究では、これらを三次元的にランドスケープの見地から分析・考察し、自己の生存空間と周辺の自然環境が連動して形成されたランドスケープを「風物詩空間」と位置づけ、「風物詩空間」のデザイン手法解明にむけて、基礎的研究を行なった。

第 1 章では、浮世絵図に多く描かれた風空間に注目し、現代社会が失った共感覚的世界観について論じ、江戸が持続可能な循環社会システムを起点とした高い精神世界を有している点を明らかにした。また、上記空間を『風景、季節を一定の韻律などを有し、美的感動を凝縮して表現し、人の心に訴え、心を清める作用を持つ環境』として『風物詩空間』と定義した。

第 2 章では、日本絵画の伝統を継承し、名所を描いた歌川広重の絵画特性に着目し、風物詩空間における空間構成要素を分析した。その結果、平安以降の伝統的名所構成景物要素は、「土堤」「松」「架け橋」の基本構造によって受容され、例えば、常盤の松とうつろいゆく桜の対比など、うつろいゆくものを受容する空間構成の存在を明らかにした。

第 3 章では、江戸期の空間特性分析史料として信憑性があるとされる長谷川雪旦絵図

を史料に風物詩空間における空間特性について分析した。

その結果、当時の江戸名所が視点場と歳時要素と水辺空間が相互に関係しあいながら、最も効果的に歳時要素を楽しむ空間が構成されている点をあきらかにした。

第4章では、1～3章を踏まえ、かつて、我が国の環境思想の根底に流れていた風水説、陰陽五行説を環境影響評価法の視点から考察し、浮世絵図に描かれた共感覚的世界観がどのようにして成立していったのか、また、その主要因子などの構造解明を行ない、最後に「風物詩空間」のプロトタイプ化を行なった。

プロトタイプ化したことで絵図の世界を再現する基本的情報を集約し、風物詩空間の要素を浮き彫りにすることが可能になった。風物詩空間には多くの空間が存在するため、一様にはまとめにくい点もあったが、論を図化することで、風物詩空間の構成を読み取りやすくした意義はある。

浮世絵図に描かれた共感覚的世界観を有したランドスケープは、地域文化に根ざした独自の風景、人と自然の昇華としての美が作り出すものであり、最小の働きで効果的働きを創出する環境理念によって支えられた風土に暮らす人々の感性の表象化だと捉えることができる。

そこには、人と自然の共生・共感の思想によって、美を昇華する高度な精神性が存在しており、人と自然の昇華としての美：「風物詩空間」を創出することは、風土に根ざした持続可能社会の構築、地域文化・歴史・自然・伝統を多面的に活用してゆく総合芸術であると捉えることができる。

私論ではあるが、本研究は、今後のランドスケープデザインの1方向を開拓し、その一端を研究成果としてまとめることができたと考えている。